【実践報告２】

これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの在り方に関する研究

― 県立高等学校「総合的な探究の時間」の計画と実践 ―

愛知県立小牧南高等学校

１　はじめに

本校は，尾張東部に位置し，小牧山を北に仰ぐ普通科高校である。創立当初から，きめ細かい学習指導及び生徒指導を行っており，本年度で創立43年目を迎える。約９割の生徒が四年制大学へ進学をし，短期大学や専門学校を合わせるとほぼ100％の生徒が進学をする。しかし，上級学校を選ぶ基準に関するアンケートにおいて，最も多かった項目は「通いやすさ，自宅からの近さ」であった。このように，将来の生き方や働き方について考えた上での選択をせず，進路意識や目的意識が希薄なまま，とりあえず進学する生徒が少なからずいる。また，本校の生徒は，気質の上では「素直で純朴，素朴」「提出物はほぼ出せる」「言われたことには従う」といったよい面がある一方で「受け身で指示待ち」「リーダーシップがない」といった側面もある。

変化を予測することが困難な時代において，生徒たちには変化に対して主体的に関わり，感性を豊かに働かせながら人生を切り拓いていくことが求められている。実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，探究課題を解決する経験は，学習の基盤となるだけではない。これから先の社会を支え，活躍していくためには必要不可欠な力となる。

令和２年度から３年間，本研究の研究協力校としての指定を受け，１年目は「どのような生徒を育てたいのか，また，どのような資質・能力を育てようとするのか」を協議し，それを基にして全体計画を立てた。２年目には「スキルを学ぶための探究課題」を実践し，３年目には「核となる探究」の模索及び実践を行った。

２　実践内容

⑴ 全体計画の作成（別紙２）

ア　現状把握シート（別紙１）

全教員からのアンケートを基に作成し，生徒の強み・弱みと実態を洗いだすことを通して共通認識をもった。それらの強みや弱みから，目の前の生徒たちに対して，どのような資質・能力を育んでいく必要があるかを検討した。

㈠ 本校生徒の特徴

真面目で素直であり，吸収力がある。しかし受け身で，リーダーシップを発揮しづらいことや自ら課題を見つけて深く掘り下げることは苦手な生徒が多い。

㈡ 育てたい資質・能力

これからの社会で起こりうる諸問題に気付く能力。他者と協働して解決策を探し，発見した解決策を伝える能力など。

イ　各学校において定める目標の作成（別紙２）

新学習指導要領では，目標及び内容について，育成を目指す資質・能力が三つの柱に沿って設定されていることを受け，本校の目標もそれに合わせて作成した。

ウ　目標を実現するにふさわしい探究課題の作成（別紙２）

各学年で核となる探究課題を設定した。

エ　探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の作成（別紙２）

設定した探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を三つの柱に沿って作成した。

研究１年目に全体計画を作成したが，２年目にそれを生かせずなかなか進展させられなかった。ゼロから一を生みだすのが大変だと感じ，３年目になってやっと本格的に動き出した。

第１学年においては，探究とはどのようなものかを知り，探究のプロセスを経験することを目標とした。学校や地域の特色に応じた課題にグループで取り組み，「自己の意見を伝え，他者の意見を聞く」「協働的に問題解決に向かう」「自ら課題を発見し，深く考え，どのように改善することができるのか主体的に考える」という経験をさせ，その後，学年が上がるにつれて学ぶことを踏まえて探究を更に深め，３年間が有機的につながるように計画した。

(2) 学校全体の組織体制

ア　「総合的な探究の時間」委員会の構成

校長，教頭，教務主任，進路指導主事（本研究の主担当），特別活動部主任，各学年主任，各学年から数名の教諭

イ　以前の本校の課題と取組

本研究に取り組む以前，本校には以下で示すような課題があり，研究を通して矢印で示すような検討や改善を行った。

①「総合的な探究の時間」（以下「総探」）を受けもつのは担任のみで，担任の負担が大きい。

→　副担任（３名）も受けもつことにした。

②学年主任と担当者数人で準備することが多く，主に計画している学年主任の負担が大きい。

→　副担任が，次週の準備や計画策定を補助することにして負担軽減を図った。

③授業時間内に「総探」の会議時間を確保できない。

→　本校は65分授業のため授業時間内に確保することは難しい。会議としての時間は取れないが，空き時間を有効活用し，そのとき集まれる教員と計画の立案や見直しを行った。

④「総探」を進めるための「核」となる小委員会（「総探」委員会とは異なる）をつくることができていない。

→　担当者数人で情報共有し，意見交換をしながら本研究を進めることはできた。

研究に携わって２年目，私自身が特別活動部主任から進路指導主事へと変わり，「総探」の計画や進行に割ける時間が減ってしまった。ここで，次のことを学んだ。

・一人では，やれることに限界がある。
・組織で進めていかないと，学校全体では取り組めない。
・案を練る時間を十分にとることが大事。
・ある程度の構想がまとまったら，どのように組織的に動かすかを考えていくことが必要。

(3) 核となる探究課題について

ア　第２学年の「核となる探究課題」の模索について

今年の７月になっても，なかなか核となる探究課題を定められずにいた。当研究会連絡会での他校の取組を参考にして計画を変更した。「従来行っていた小論文指導は探究といえないので，ＬＴで実施するなど変更してほしい」「核となる探究を行うにあたり，少なくとも10時間くらいは必要となる」ということを伝えて，学年主任と一緒に計画を練ることになり，年度途中ではあるが活動内容を大幅に変更し，「小牧学」と呼ぶ探究課題の策定に至った（**資料１**）。

【資料１　小牧学の計画】

日　程	回	内　容	
10/４（火）５限 自分のクラス	1	課題設定①	小牧学の七つのテーマ全てに「不満・不足・不便・不利な点」や「だったらいいな」を考える。
10/31（月）３限 テーマのクラス	2	課題設定②	小牧市の現状を知る。付箋でＫＪ法を行う。　１人１台端末使用 課題設定…教員によるアドバイス いろいろな視点に立って「小牧学」のテーマに対する「問い」を発見する。
11/８（火）５限 テーマのクラス	3	課題設定③	個人で見つけた「問い」をグループで共有し，そのグループにて取り組む探究課題を決定する。
11/14（月）３限 テーマのクラス	4	情報収集①	情報収集のアプローチ方法と，原因の調査方法（文献調査とフィールドワーク）を知る。　１人１台端末使用
11/22（火）５限 テーマのクラス	5	情報収集②	情報を収集する。　１人１台端末使用
フィールドワーク	★	（情報収集③）	情報を収集する。現地を見る，写真を撮る，インタビューなど。
11/28（月）３限 テーマのクラス	6	整理・分析	課題に対する解決策を検討し，アイディアを絞り，グループで解決策をまとめる。付箋でＫＪ法（アイディア出し）。
12/13（火）５限 テーマのクラス	7	まとめ・発表① 中間発表準備	発表に向けて課題発見のプレゼンデーションをグループで作成する。 １人１台端末使用
１/10（火）５限 テーマのクラス	8	まとめ・発表② 中間発表準備	発表に向けて課題発見のプレゼンデーションをグループで作成する。 １人１台端末使用
１/16（月）３限 テーマのクラス	9	まとめ・発表③ 中間発表	テーマのクラスで中間発表を行い，最終発表に向けての改善点を確認する。
１/30（月）３限 テーマのクラス	10	まとめ・発表④ 最終発表準備	自分のクラスでの最終発表に向けて課題発見のスライドを改善する。 １人１台端末使用
２/７（火）５限 自分のクラス	11	まとめ・発表⑤ 最終発表	自分のクラスで最終発表を行い，発見した課題について報告する。
２/13（月）５限 自分のクラス	12	振り返り	「小牧学」全体の活動について振り返りをする。

イ　どうしたら「探究」にふさわしい内容になるのか

探究活動を教えたことがない教員にとって，教え方が分からない不安が大きいのは事実である。しかし，教員が探究活動の正解をもっているわけではない。生徒と教員がともに探究していく中で，多くの失敗もあるが，そのときに失敗してもよいと伝えること，あるいは，生徒自身に失敗してもいいんだと気付かせることが大事である。ここで「心理的安全性」ができる。また，チームの目標に向かって，健全な意見の衝突が起こるような状態を経験させることが大事である。また，教員が「教える」のではなく「分からないから一緒に学ぶ」ことが，探究のモデルになると考えた。

ウ　小牧学の実践について

(ｱ) 内容

「小牧市をよりよい町にする」ために，今何が問題なのか，何が原因なのか，どうすれば改善されるのか，について探究してグループで発表することを目標にした。

小牧市に関して，次に示す七つのテーマ（①小牧市の交通，②小牧市の自然や農業，③小牧市の経済や雇用，④小牧の魅力発信，⑤さまざまな国の人との共生，⑥小牧の歴史文化，⑦小牧市のライフスタイル(健康・福祉等の生活様式））のうちのいずれかについてグループに分け，同じテーマのグループを集めて探究を進め，中間発表を行った（グループのメンバーやテーマに関しては，事前に提出させたワークシートを基に，ふだんから仲のよいメンバーではなく担任がランダムに決めた）。その後，それぞれが自分のクラスに戻って最終発表を行った。適宜担当教員がアドバイスをしながら進め

たが，教員自身も初めての経験であり，生徒と一緒に試行錯誤を繰り返した。可能であれば現地に赴いて調査したり，インタビューしたりすることも考えていたが，今年は新型コロナウイルス感染予防のため，ほとんど実現しなかった。

(ｲ) 生徒の様子

当初，課題設定には２時間しか用意していなかったが，生徒たちは，さまざまな「問い」を立て，グループで取り組む課題を決めることに苦労していた様子であった。小牧市に関する情報が足りないことから，現状把握や改善点を見つけるために，予定よりも１時間増やすことにした。初めは何をやってよいのか分からず動けない生徒もいたが，探究のプロセスを一つ一つ担当教員が説明すると，思いのほか取り組めていた。グループの中で役割分担し，協力し合いながら発表に向けて取り組むことができた。

(ｳ) 教員の働きかけ

各担当教員から生徒への働きかけ方は，多めにサポートに入ることもあれば，生徒の自主性に任せるなど，多様であった。最初はつまらなそうにしていた生徒が，教員の声掛けをきっかけに「楽しそう，自分もやってみたい」と目を輝かせるようになるなど，自分たちの取組が身近な問題の解決に役立つと気付くと，楽しそうに取り組んでいた。教員が「自分だったらこんなことやってみたい」という話を楽しそうに伝えることが，生徒の心を動かすきっかけにもなった。教員もワクワクする気持ちをもって一緒に探究することが何より大事である。

(ｴ) ＩＣＴの利用

発表は班ごとにMicrosoft PowerPointで作成した４から５枚のスライドで写真や図表などを効果的に用いて，各班で設定した課題について背景，原因，現状，改善策などをまとめた。資料作成の際には，１人１台のタブレット端末を用いた。テーマ別にMicrosoft Teamsでチームをつくり，発表用の資料は，毎時間Teamsのファイルにアップロードさせた。作業はTeams上の共有しているファイルを，グループのメンバーで共同制作した。Power Pointを使ったことがない生徒も多かったが，Microsoft Wordを使用した経験がある生徒は多く，苦労している生徒はあまりいなかった。

(ｵ) 発表の様子

以前に他の教科でも発表の経験があるため，かなり上手に発表できていた（**資料２**，**資料３**）。中間発表を行ったことで，内容やスライドの伝え方を工夫，改善して，最終発表に向けてブラッシュアップすることができた。他のグループ発表からよい面を吸収しつつ，問題解決に向けたさまざまなアイディアを知り，また次の「問い」へとつながるよい経験となった。

【資料２　「小牧学」発表の様子】

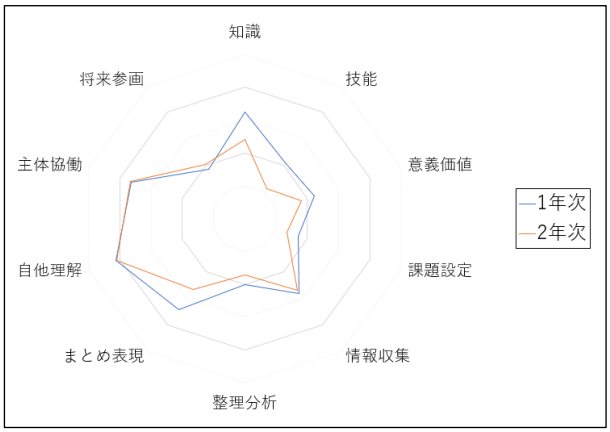
【資料３　発表のスライドのテーマの一例】

(4) 生徒アンケート及び調査の結果について

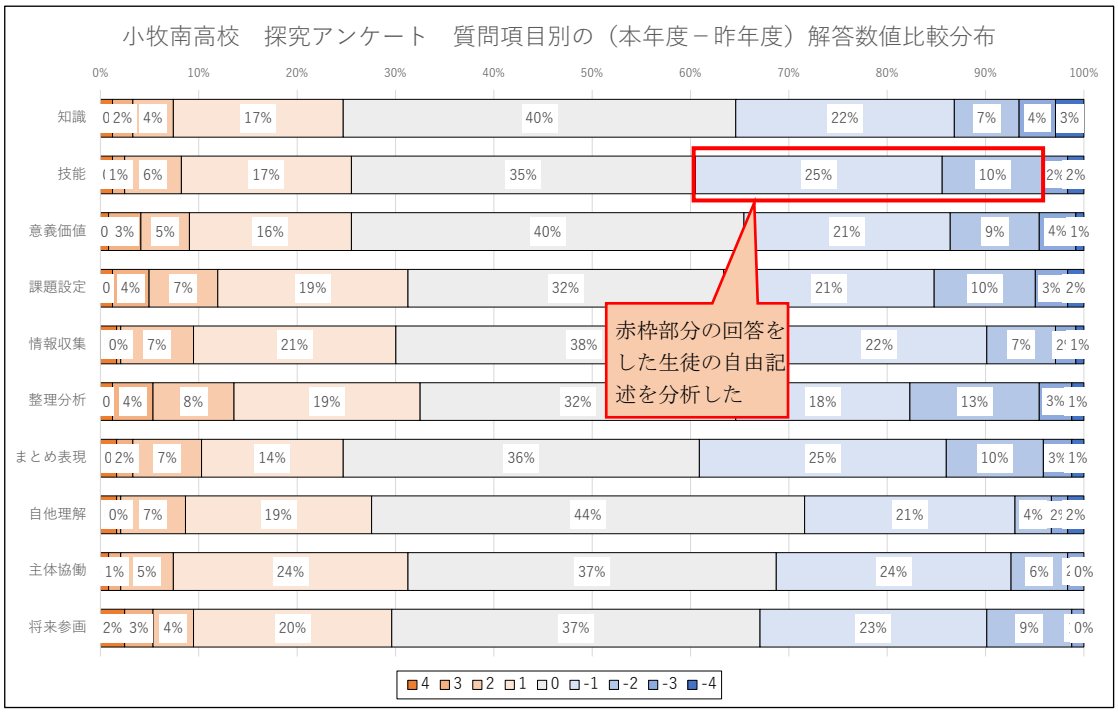
ア　育成を目指す三つの資質・能力に関するアンケートについて

令和４年度（以下，本年度）第２学年の生徒対象に「総合的な探究の時間」で育成を目指す三つの資質・能力に関するアンケートを12月に実施した。その結果，昨年のデータと比べで多くの項目で数値が下がっていた（**資料４**）。そこで，10の質問項目のうち値の低下が特に大きかった「課題を解決するための手順を身に付けて，さまざまな場面や状況に対しても活用できるようになりましたか（技能）」について，生徒の自由記述を詳しく見ることにした。令和３年度（以下，昨年度）から１または２段階値を下げて回答（**資料５**）している生徒の記述からは，「あまりいい解決策が思いつかなかった」「活用できるような場面や状況にまだなったことがない」「課題を解決するのに苦戦しているから」「まだ原因や理由しか見つけられていないと思う」といった意見があり，そもそも課題を解決できていないと感じていることが見受けられた。このことから，データの数値が下降した理由については生徒が成長するにつれて探究への理解が深まり，より厳しく採点しているためであると考えられ，昨年度より評価を下げていても十分に成長を実感していると言える。また，他の項目についても，同様な分析ができると考えられる。なお，「自分の考えをまとめたり，他者に伝えたりする活動を通して，課題や自分自身の理解が深まることにつながりましたか（まとめ・表現）」の項目の値が低くなっている理由として，核となる「小牧学」の中間発表，最終発表（１～２月頃）を行う前に，本アンケートを実施したことが原因であると考えられる。

【資料４　アンケート比較（１年次，２年次）】



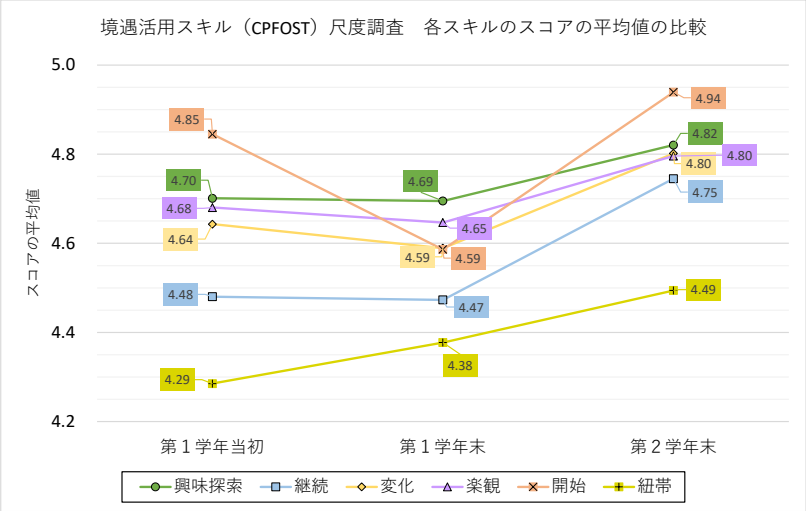
【資料５　回答数値の比較（１年次，２年次）】



イ　境遇活用スキル（ＣＰＦＯＳＴ）による探究学習の効果測定の結果と分析

教育心理学者のクランボルツが提唱する「計画された偶発性」における五つのスキル（好奇心，持続性，柔軟性，楽観性，冒険心）に人間関係（弱い紐帯）を加えた六つのスキルをもとに開発された，境遇活用スキル（ＣＰＦＯＳＴ）尺度を用いて（詳細は本文を参照），当研究顧問の愛知教育大学高綱睦美准教授の御指導の下，生徒にアンケート調査を行った。昨年度は，第１学年の生徒対象に，年度当初と年度末に近い時期で２回実施した。その結果，年度当初と比較して年度末の平均値は，紐帯スキルを除く５項目で横ばい若しくはやや低下（0.01から0.26ポイント減）していた。しかし，本年度第２学年の生徒対象に年度末に近い時期で再び調査を実施し，その結果を分析したところ，昨年度の年度末の平均値と比較して，全ての項目で大きく増加（0.12から0.35ポイント増）していた（**資料６**）。第１学年の多くの項目で一旦値が下がった原因として，年度当初がそもそも4.5から4.8程度と高い数値であったことに加えて，中学校から高等学校へと学習や生活の環境が変わり，大人として控えめに自分自身を捉えているためではないかと考えられる。そして，第２学年では高校生としての視点でこれら項目における能力の成長を感じているのではないかと考えられる。したがって，当研究のみの成果であるとは言えないが，この２年間でこれらのスキルに関わる生徒の成長があったものと考えられる。また，調査結果は，経年変化による生徒の変容を評価するだけでなく，調査時期ごとの生徒の傾向，例えば第１学年当初や第２学年末で開始スキルが大変高い値を示していることを受けて少々挑戦しがいのある探究課題を設定するように内容を考えるなど，学年計画や単元ごとの計画の作成の参考になると考えられる。

【資料６　ＣＰＦＯＳＴの各スコアの年次比較（本校生徒）】



３　成果と課題

ようやく３年目にして，第２学年で柱となる探究課題を計画し，全体計画で示す目標に向かって実施し始めたところが一番の成果と言える。私は，研究を委嘱された１年目から「どうしたら探究にふさわしい内容となるのか」「生徒の資質・能力を育むための総合的な探究の時間にするにはどうしたらよいか」ということを担当者の先生方とともに考え続けてきた。時間はかかったが，少しずつ担当者の意識が変わり始め，「こうしたら探究にふさわしい内容なのではないか」「資質・能力を育むための総探にするにはこんな活動をしたらどうか」という話ができるようになった。特に，担当者の意識が大きく変わったきっかけは，生徒が楽しそうに取り組んでいる様子，主体的に取り組んでいる様子を担当者が実感できたことと思う。現在は，生徒用１人１台端末やプレゼンテーションソフトを使った発表など初めてのことが多い中で，担当者間でさまざまな意見を出し合い，内容や指導方法などをその都度評価，改善しながら進めている状況である。

今後の課題としては，次に示すことが挙げられる。

①　小牧市や地元企業，中学校などとの連携を進めていく。

②　生徒各自の進路選択につながる探究（グループでなく個人の探究）ができるようにする。

③　生徒が自分事として探究活動を行い，常日頃から問題意識をもち続ける。

④　生徒も教員も常にワクワクとした雰囲気で「総探」に臨めるよう，３年間の計画をよりよいものに改善していく。

⑤　担当者が変わっても継続できる体制をつくる。

⑥　持続可能という観点から，一部の先生だけに負担がかからないよう，学校全体で取り組む。

これらを一気に何もかも変えることは，とてもエネルギーが必要である。できることから，無理をせず順序立てていくことを意識しよりよい実施を目指していきたいと思う。

【別紙１　現状把握シート】

現状把握シート

学校の教育目標

（校訓）
知・行・恕（ち・こう・じょ）
「自ら学び、考え正しく判断できる人間、活力に満ち、たゆみなく実践する人間、豊かな情操を備え、礼節を重んじる人間 」の育成を目指す 。

（教育目標）
グローバルな視野を備え、社会の発展に貢献できる、心身ともに健康で活力ある人間を育成する。

目指す子どもの姿

③　子どもの強み

・小牧市内には本校卒業生が多く活躍している。
・小牧市内の小中では、学び合いの学習が進められていてA.L.の素地はある。
・小牧市内には本校卒業生が多く活躍している。
・保護者・ＰＴＡは協力的な人が多い。
・教員の指示に従う。
・短期的には細かい作業をこなす。（真剣みや　志向の程度は不明）
・真面目で素直（吸収力はある）。
・提出物はほぼ出せる。
・挨拶など礼儀正しい生徒が多い。
・皆と協力し、部活動などにおいて活気がある。
・スマホ・ネット・ＳＮＳなどの知識は豊富。
・ＳＮＳ上でのコミュニケーション能力は高い。（相談もできる）
・大人の指導は素直に受け入れる。
・周囲の雰囲気にあわせた言動を取ろうとする。
・行事に対し、積極的に活動する生徒もいる。

②　現在の子どもの実態

・素直で純朴・素朴。従順、人懐こい。
・受け身で指示待ち、リーダーシップがない。
・自信がない。
・小牧市内を中心に近隣中学校出身者が大半で、気質的に同質性が高い。
・中学時代には成績中位の生徒たち。英語力が弱い。
・落ち着いているが猫をかぶっている。自分の意思を強く持ち、表現するには時間や機会が必要。周りに合わせがち。
・エネルギーやスケールに乏しい。
・進路はやりたいことよりも、偏差値レベルで決定しがち。
・小テストへの取組が一生懸命。
・打たれ弱い（中学校で中間層であったこともあり、叱られたり、大きな挫折を経験したりしていない。）
・自尊感情が低く、勝負事を苦手とする生徒が多い。

・貧困 ネグレクト 虐待など家庭の問題が増加。
・特別な支援や配慮を要する生徒が増加。
・コロナウイルス感染症拡大による様々な危機的状況の影響も考えられるが精神的不安定な生徒が多い。

③　子どもの弱み

・主体性に乏しい。積極性に欠ける。人任せ。
・受け身で積極的に吸収する意欲が弱い。
・高校生活にメリハリがない。リスクを取らず、羽目をはずさない。
・リーダーシップを取りたがらない生徒が多い。
・読書量が極めて少ない。
・目の前のことが終わったらそれでよしという感覚がある。次につなげることができない。
・おとなしい。
・コミュニケーション能力が低い。
・自信がない。自己肯定感が高くない。
・自ら課題を見つけて深く掘り下げることは苦手。
・目標が不明確であり、高い目標をもって持続的に努力することが不得手な生徒が多い。
・将来に対する見通しが甘い。
・課題は出すものの、意識が低い。
・情報の活用はできない。
・苦手なこと嫌いなことには取り組もうとしない。
・地域連携が少ない。
・状況に応じた話し方や言葉選びができない。
・自分の考え・意見を言えない。援助要請をしたり自ら解決法を見出したりすることが苦手。
・ＳＮＳトラブル 対人関係トラブルが増加
・身体化 行動化が見られる。

全教職員で子どもの実態を把握し、共通理解する

子どもに身に付けさせたい資質・能力

重点目標を具現化した子どもの姿

④
・これからの社会で起こりうる諸問題に気づき、他者と協働して解決策を探し、発見した解決策を伝える能力を養う。
・リーダーシップ・周囲に影響を与える能力
・コミュニケーション能力
・生徒自らで在り方、生き方を考えさせ、将来像を主体的につかませる。（キャリア教育の計画）
・先を見据えて今やるべきことを自ら理解・判断し実行することができる。（長期的展望に基づいて、進路を考える力）
・国家・社会の有為な形成者となる気概を育てたい。
・失敗を恐れない心、失敗しても前向きにとらえる力をもたせる。
・自信をもって、積極的に行動させる。答えが一つに定まらない問題に対して、知識・技能を活用して多面的・多角的に考察する力を養う。
・他者の考えを、共感性を持って聞き、他者と協力しながら自らの力を発揮する。人を思いやる心をもつ。様々な場面での言動を自分でコントロールできるようにする。（恕）
・良きフォロワーとなる経験を積ませる。（リーダーシップはその後徐々に）
・国語だけでなく、数学や理科などの論理を身につける（統計処理や有意差など）。
・書物や新聞記事・インターネットなどの情報を的確に利用し、筋道立てて物事を探究する能力を身につける。
・習得した知識を、発展的な課題に活用する能力を養う。
・調査したデータについて（データの有意差・外れ値の扱い・捨てる根拠）
・高い目標を設定し、その実現のための具体的な方策を理解しつつ継続的に暮らす・学園全体でともに努力する姿勢。
・自主独立
・ネット空間を離れ、自然に触れさせる。
・言語教育→本を読ませる（マンガでもよい）
・教科・部活動・行事をバランスよく充実させ、基礎学力はもちろんのこと、対人スキル・マナーなど社会人として必要なことを身につける。
・独りよがりにならず、周囲への感謝を忘れない。

【別紙２　全体計画】

小牧南高等学校　「総合的な探究の時間」　全体計画

第１の目標	各学校における教育目標
探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	（校訓）知・行・恕 「自ら学び，考え正しく判断できる人間， 活力に満ち，たゆみなく実践する人間， 豊かな情操を備え，礼節を重んじる人間 」の育成を目指す。 （教育目標） グローバルな視野を備え，社会の発展に貢献できる，心身ともに健康で活力ある人間を育成する。

各学校において定める 目 標

①（自己の進路に向けて）知識及び技能
自らの在り方，生き方を考え，将来像をつかむ。
②（課題解決能力の習得）思考力，判断力，表現力等
常日頃から身の回りや社会に対して問題意識をもつ。その中からさまざまな「問い」を立て，問題の本質や原因の究明を考え，探究を通じて解決する「課題」を設定し，解決策を立案・実行する能力を得る。
③（人格の陶冶）学びに向かう力，人間性等
主体的に学び，他者と協働的に取り組めるようになる。また，他人の立場に立ち，その人の痛みや苦しみ，喜びを自分のことのように感じることができるようになる。

各学校において定める 内 容

目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す 具体的な資質・能力
地域や学校の特色に応じた課題　【第１，第２学年】 【第１学年】 学校内及び周辺における問題点や改善点 ～グループでの小さな探究を経験～ ・探究のプロセスを経験する ・探究とはどのようなものかを知る ・まとめて発表 【第２学年】 「小牧学」　～小牧市をよりよい街にするために～ ・小牧市の現状を知り，問題点を考える ・問題の本質，原因の究明を追究する ・どうすれば解決・改善されるのか考える ・まとめて発表	知識及び技能 ・地域の魅力や問題点を理解する。 ・「問題解決のためのさまざまな技法」を習得し，自在に活用できる。 思考力・判断力・表現力等 ・諸問題に気付き，「問い」を立て，「探究課題」を設定し，他者と協働して解決策を模索できる。 ・相手や目的・意図に応じて，論理的で効果的な表現ができる。 学びに向かう力，人間性等 ・他者の考えを，共感性を持って聞き，他者と協力しながら自らの力を発揮する。 ・他者と協働することで一人よりも大きな力で取り組めることを知る。 ・失敗を恐れない心，失敗しても前向きに捉える力をもち，自信をもって，積極的に行動できる。 ・他者からの指示を待つのではなく，自分が今何をなすべきか，何を行うとよいのか自分で考え，実行できる。 ・課題解決に向けさまざまな役割を経験し，リーダーとしての資質・能力をもつ。 ・人を思いやる心を持ち，リーダーを支えるよきフォロワーとなる。
職業や自己の進路に関する課題　【第１，２，３学年】 ・職業や勤労：職業の選択と社会貢献及び自己実現などについて学ぶ。さらに，将来どの分野で世の中に貢献するのか考え，就きたい職業を考える。 ・自己の進路：自己との対話を進めながら自分自身について知り，将来への的確な道筋を見つけだす。職業や上級学校のことを調べ，自身の将来の姿を想像し，どのような進路選択が最適かを考える。	知識及び技能 ・さまざまな職業について情報を集め，興味や学びたいことを考える。 思考力，判断力，表現力等 ・将来どの分野で世の中に貢献するのか考えをもつ。 学びに向かう力，人間性等 ・「情報収集・分析力」（必要な情報を正確かつ効率的に集める能力） ・自分自身と向き合うことで，自身の将来の姿を想像して主体的に行動できるようになる。

教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力

情報活用能力	言語能力
・書物や新聞記事・インターネットなどの情報を的確に利用し，筋道立てて物事を探究できる。 ・さまざまなデータを読み取り，分析できる。 ・統計処理を学び，有意差や相関関係などの論理を理解できる。	・意見交換や発表において，言葉を通じて伝え合うことができる。 ・聞き手に分かりやすい言葉や表現で，発表や発言をすることができる。

【別紙３　「小牧学」実施要項】

２年総合的な探究の時間　「小牧学」　要項

１.探究活動の目標

①自己の在り方・生き方を考え，将来像をつかめるようになる。

②さまざまな問題に対して，「問い」を立てられるようになり，仮説検証する方法を学ぶ。また，適切な方法を選べるようになる。

③主体的に学び，他者と協働的に取り組めるようになる。また，他人の立場に立ち，その人の痛みや苦しみ，喜びを自分事としてのことのように感じることができるようになる。

★身に付けてほしい力(再掲)★

・「他者と協働する力」（協働することで，一人で行うよりも大きな力で取り組める）

・「自主的に学ぶ力」（他者からの指示を待つのではなく，自分が今何をなすべきか，何を行うとよいのか自分で考え，実行する力）

・「情報収集・分析力」（必要な情報を正確かつ効率的に集める能力）

・「自分自身と向き合う力」（「自分はどう考えるのか」「自分はどうありたいのか」など，個人の内面に働きかける力）

そして，「粘り強く取り組む力」

２.活動概要

「小牧市をよりよい町にする」ために，今何が問題なのか，何が原因なのか，どうすれば改善されるのか，について発表しよう！

七つのテーマのうちいずれかについて，グループごとに活動していく！テーマごとのクラスで探究を深め，中間発表を行い，修正ののち，自分のクラスに戻って最終発表を行う。適宜担当教員にアドバイスを求めたり，実際に関係部署などにインタビューなどを実施したりしてもよい。

※テーマのクラスとグループは基本的にランダムで決まります。

３.取組テーマについて　七つのテーマ

・小牧市の交通　・小牧市の自然や農業　・小牧市の経済や雇用　・さまざまな国の人との共生

・小牧市の魅力発信　・小牧の歴史文化　・小牧市のライフスタイル（健康，福祉などの生活様式）

４.発表用資料

班ごとにPowerPointで作成。写真や図表などを効果的に用いて，各班で設定した課題について背景，原因，現状，改善策などをまとめる。１月16日の中間発表までに完成させ，更に中間発表での反省を基に，２月７日までに修正する。基本的に資料作成の際には，一人に１台ずつ配備されるタブレット端末を用いる。

５.スケジュールと内容（予定）

日　程	回	内　容	
10/４（火）５限 自分のクラス	1	課題設定①	小牧学の七つのテーマ全てに「不満・不足・不便・不利な点」や「だったらいいな」を考える。
10/31（月）３限 テーマのクラス	2	課題設定②	小牧市の現状を知る。付箋でＫＪ法を行う。　１人１台端末使用 課題設定…教員によるアドバイス いろいろな視点に立って「小牧学」のテーマに対する「問い」を発見する。
11/８（火）５限 テーマのクラス	3	課題設定③	個人で見つけた「問い」をグループで共有し，そのグループにて取り組む探究課題を決定する。
11/14（月）３限 テーマのクラス	4	情報収集①	情報収集のアプローチ方法と，原因の調査方法（文献調査とフィールドワーク）を知る。　１人１台端末使用
11/22（火）５限 テーマのクラス	5	情報収集②	情報を収集する。　１人１台端末使用
フィールドワーク	★	(情報収集③)	情報を収集する。現地を見る，写真を撮る，インタビューなど。
11/28（月）３限 テーマのクラス	6	整理・分析	課題に対する解決策を検討し，アイディアを絞り，グループで解決策をまとめる。付箋でＫＪ法（アイディア出し）。
12/13（火）５限 テーマのクラス	7	まとめ・発表① 中間発表準備	発表に向けて課題発見のスライドをグループで作成する。 １人１台端末使用
１/10（火）５限 テーマのクラス	8	まとめ・発表② 中間発表準備	発表に向けて課題発見のスライドをグループで作成する。 １人１台端末使用
１/16（月）３限 テーマのクラス	9	まとめ・発表③ 中間発表	テーマのクラスで中間発表を行い，最終発表に向けての改善点を確認する。
１/30（月）３限 テーマのクラス	10	まとめ・発表④ 最終発表準備	自分のクラスでの最終発表に向けて課題発見のスライドを改善する。 １人１台端末使用
２/７（火）５限 自分のクラス	11	まとめ・発表⑤ 最終発表	自分のクラスで最終発表を行い，発見した課題について報告する。
２/13（月）５限 自分のクラス	12	振り返り	「小牧学」全体の活動について振り返りをする。

６.参考【「問い」を立てるポイント】

①「問い」にはさまざまな種類がある。

1　言葉の意味や定義を問う「問い」　　例：〇〇の意味は？

2　原因（なぜ）を問う「問い」　例：なぜ〇〇は生じている？

3　信憑性を問う「問い」　　例：〇〇は本当に生じているのか？

4　比較を問う「問い」　　例：〇〇はどの程度進んでいるのか。過去に比べて…　他国に比べて…など

5　先行研究・先行事例を問う「問い」　　例：〇〇に対してどのような取組や研究がされてきたのか？

6　影響を問う「問い」　　例：〇〇によってどのようなことが起こるか？

7　方法や関連性を問う「問い」

例：〇〇と△△はどのような関係があるのか？どのようにして〇〇を行うのか？

②「問い」の答えがすぐ見つかる場合も多い。それでは「調べ学習」である。

→　「問い」を発展させて課題設定をする

「問い」を立てる　→　身近な情報源を用いて既存の資料などで答えの見通しを立てる。

→　新たな「問い」を立てる

③マジックワード（聞こえはよいが，抽象的で何を意味するのか分からない言葉）に気を付ける。

例　平和，平等，公平，活性化，活発，グローバル，よりよい〇〇，最適な，適した，
〇〇に優しい，健康，生き生き，重要，有効，効率的など

・これらは，スローガンではよく使われるが具体性がないため議論や研究を空転させてしまうことが多い。

・課題設定では，マジックワードの言い換えを行い，<u>具体化</u>しながら研究を進めていく。

・抽象的な言葉を使うときは，研究における言葉の定義を明確にする。

例：<u>安全な</u>社会　→　災害による被害が少ない社会　→　大雨による被害が少ない社会

→　大雨による土砂崩れの被害が少ない社会

「課題研究メソッド 2nd Edition」（啓林館）を参考